

県庁周辺エリアにかかる これまでの検討経緯



令和 7 年 6 月 2 日

富山県

人口減少社会を見据えた持続可能なコンパクトシティの形成を目指し、先進的なまちづくりが進められてきた富山のまちの中心に、歴史的意義を持ち、水辺や公園といったアメニティ空間を備えた「県庁周辺エリア」があります。

このエリアは、富山駅とまちなか商店街地区の中間に位置し、行政庁舎や松川、公園等の公共施設が集まり、公共交通も整備され、歴史資源や水と緑の空間に恵まれている重要な場所にもかかわらず、歩行者の流れが少なく賑わいに欠ける状況が続いていました。

一方、このエリアを歩きやすく（ウォーカブル）憩いと愉しみのあふれる空間に生まれ変わらせたいとの声が、近年、広く聞かれるようになってきました。

こうした流れから、令和5年10月、地元経済界の呼びかけで「富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会」が設置され、経済界・行政・大学・専門家等の代表者が話し合い、このエリアの価値や魅力を広く共有し、同じ方向を向いて取り組む機運を高めようと「エリアコンセプトブック（令和7年3月）」がまとめられました。

県でも、令和5年度、基礎調査やヒアリングを行い、県・富山市の若手職員や富山大学の学生によるワークショップを通じて、このエリアの現状と課題、そして「3つのありたい姿」を整理しました。あわせて、新たに設置した庁内プロジェクトチームにより、県庁周辺県有地等の活用の方向性についての検討を開始しました。

こうした経緯を踏まえ、県では、まちの活性化に資するよう、県庁周辺県有地等の有効活用を目指し、令和7年度に基本構想を策定します。

対象エリア

I. 背景

富山駅周辺

- ◆ 北陸新幹線開通（2015年）や路面電車南北接続開業（2020年）を契機として、商業投資が活発に行われている
- ◆ 日常的に賑わいイベント活動が行われている



出所：とやま観光ナビ

県庁周辺エリア

- ◆ 富山駅と商店街地区の間に位置する
- ◆ 県庁や市役所が建ち並ぶ官庁街
- ◆ 県庁前公園や富山城址公園、松川などの緑や水辺の環境が充実している



商店街地区

- ◆ 古くからの商業エリアであり再開発事業による新陳代謝が積極的に行われている
- ◆ 飲食や学生シェアハウス、インキュベーションオフィスなど、若者文化が育まれている



出所：HACHI HP

● 県庁周辺エリア ● 県庁周辺エリアの未来を考える際に念頭に置くエリア



県がまちづくりに取り組む意義

1. 背景



県庁周辺に県が有する主なアセット

これまでも県では、県庁周辺県有地等を適切に維持管理してきました。しかし一方で、長い間、ハード・ソフト両面における積極的な投資が限定的でした。

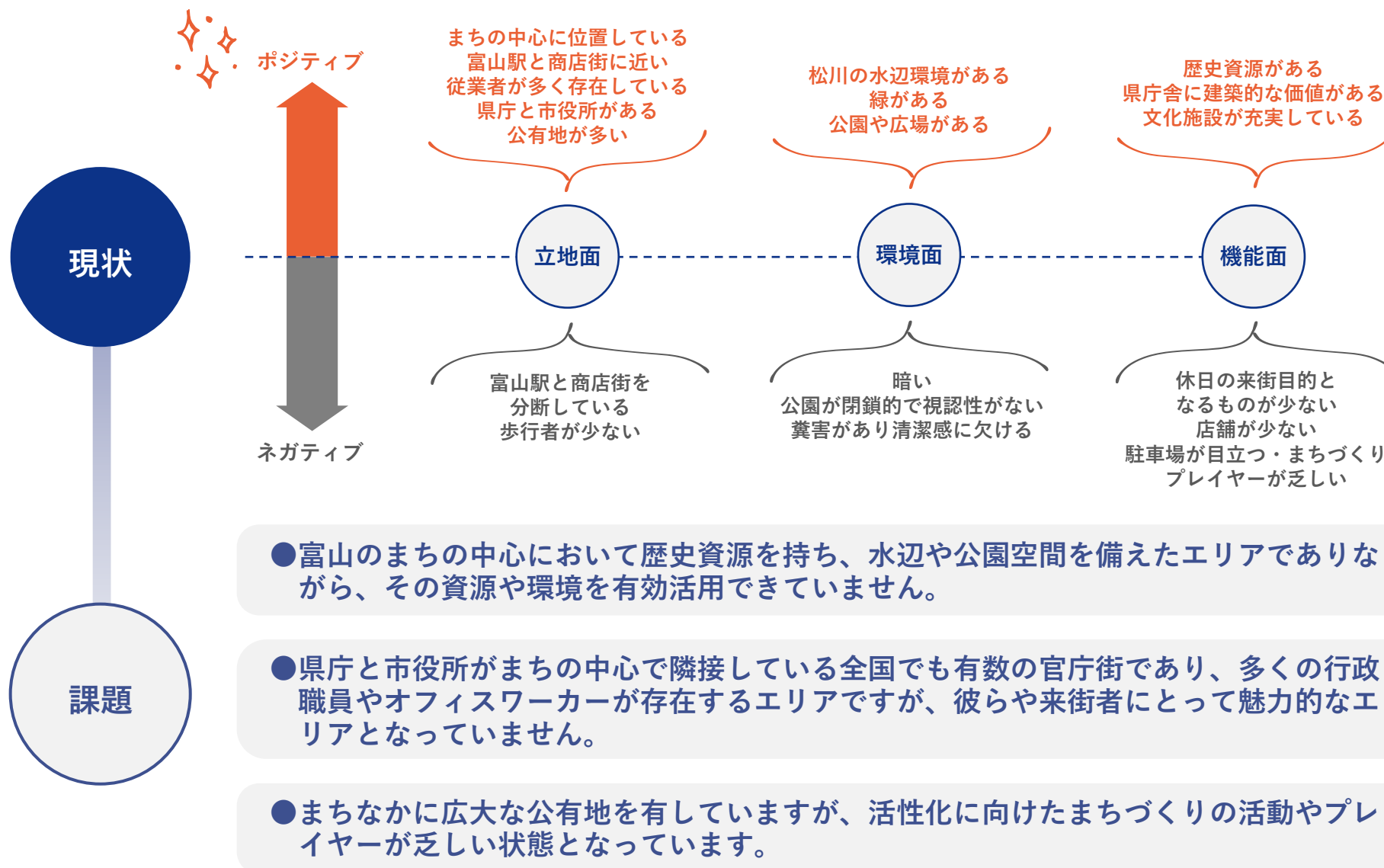
県の将来を見据えた時、このエリアの魅力を高めることは、全県的かつ中長期的な価値の創出につながります。このエリア最大の地主＝「ランドオーナー」である県が基本構想を策定する必要があると考えました。

県の顔とも言えるこのエリアのポテンシャルを活かし、産学官民の連携したまちづくりを展開することは、多様な人・企業・資金・情報を引き寄せ、その価値を県全域に波及させることにつながります。

これからは現在の環境を維持するだけでなく、ここに人が集まる魅力的な場となるよう、県として主体的に関わり、変化を生み出していきます。

県庁周辺エリアの現状と課題

II. ありたい姿



3つのありたい姿

II. ありたい姿

歴史からの示唆や現状と課題の分析、令和5年度に実施した県・富山市の若手職員や大学生を対象としたワークショップにおける議論をもとに、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

01

憩いとゆしみ
あなたの幸せ



歴史・水辺・緑を生かした憩いとゆしみの空間を形成する、訪れる人にとって「ウェルビーイング」なエリア

02

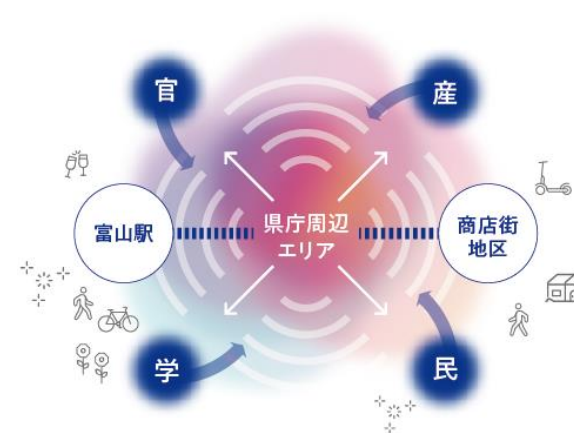
まちにつながりと
一体感を醸成する



周辺街区との連続性・回遊性を高め、まち全体ににぎわいの好循環をもたらすエリア

03

県全域に
付加価値を届ける

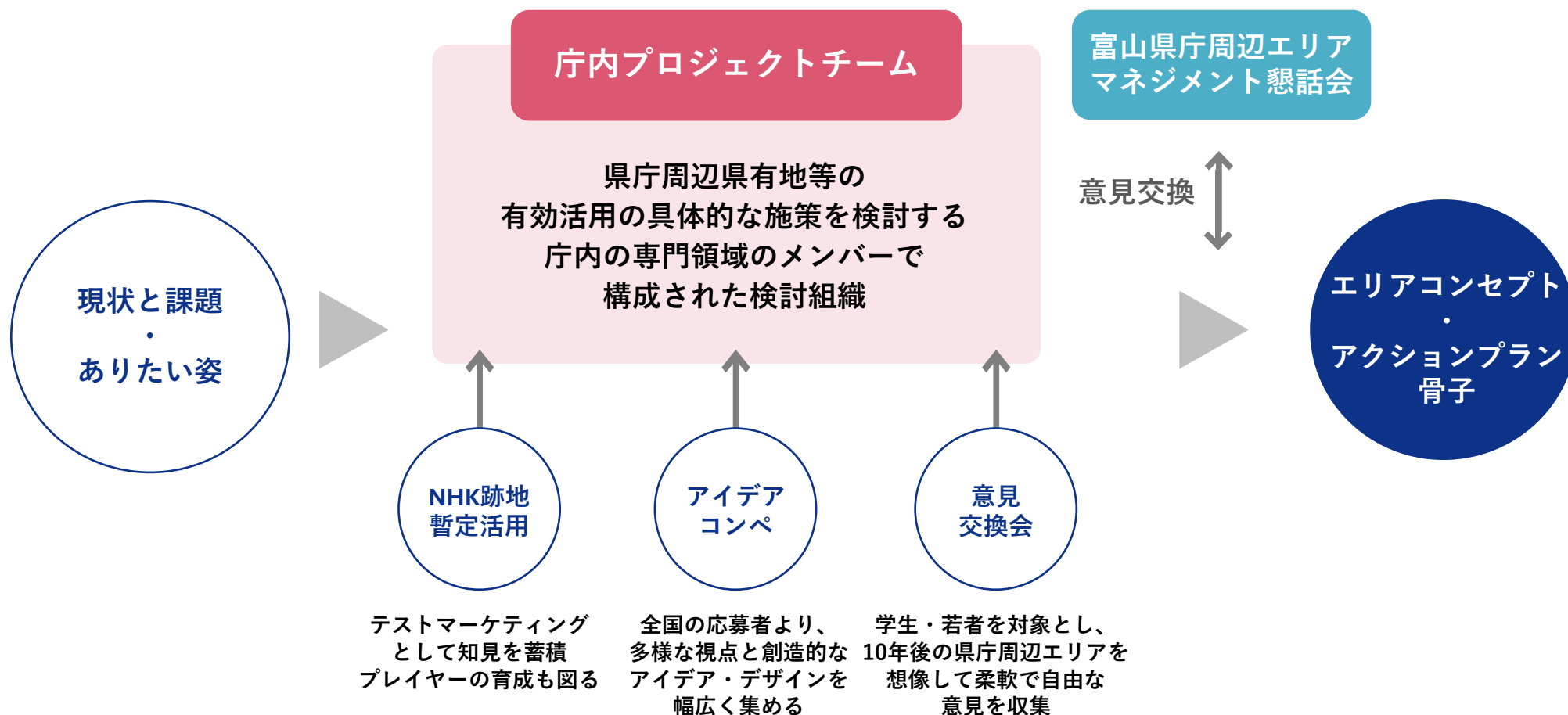


県内外の多様な人材が集まり産学官民連携が行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア

検討フロー

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

現状と課題、ありたい姿を踏まえて、庁内プロジェクトチームを中心に、エリアコンセプトやアクションプラン骨子を抽出しました。



NHK跡地の暫定活用

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

- 当エリアの本格活用までの間、暫定活用を通じて小さな変化を積み重ねていくことが求められます。
令和6年10月からの暫定活用では、これまであまり利用されていなかったイベント会場としてのポテンシャルを見出し、空間としての魅力向上策について意見を得ることができました。

目的と意義

- 今後の本格活用までの期間において、賑わいや憩いの空間を生み出し、エリアのまちづくりの変化の兆しを示すこと。
- 本格活用に向けたテストマーケティングとして知見を蓄積すること。
- エリアにおいて主体的に活動できるプレイヤーの育成と新たなコミュニティの醸成、さらに民間資金の呼び込みを目指すこと。

事例：松山市の「みんなのひろば」



出所：松山市

令和6年度実績と得られた意見

No.	実施日・イベント名	活用内容		来場者	意見
①	10/1(火) 「ケンチョウマルシェ」	県庁前公園	・ ケンチョウマルシェ	約200名	ポジティブ意見 - NHK跡地での初めてのイベントには多くの家族連れが訪れ、このエリアに一定の需要があることが確認できた。 - 多種多様な活用が可能な場所であり、今後も利用したい。
		NHK跡地	・ 焚火		
②	11/3(日)~4(月祝) 「まちめぐりとやま」	県庁前公園	・ KIDS PARK（縁日5ブース、13店舗）	約3,000名	ネガティブ意見 県庁前公園とNHK跡地の間には道路や木などがあり、一体感を作り出すのが難しかった。
			・ わんわんマルシェ（8ブース）	約1,000名	
		NHK跡地	・ 働く車展示10台	約3,000名	

①：「ケンチョウマルシェ」の様子



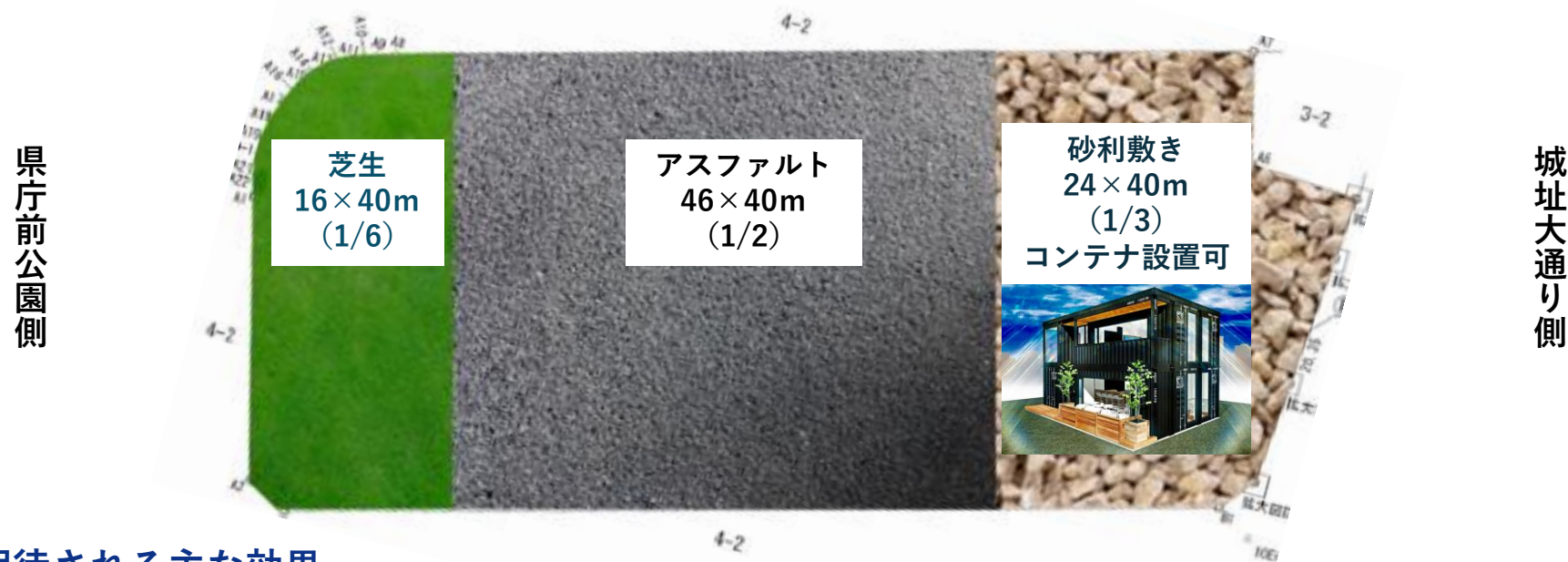
②：「まちめぐりとやま」の様子



NHK跡地の暫定活用

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

- NHK跡地の暫定活用の促進に向けて、整備を行いました。
県庁前公園との一体活用の観点から県庁前公園側1/6を天然芝とし、スポーツ等での活用を想定している中央部分1/2をアスファルトとし、チャレンジショップ等の暫定活用が期待できる城址大通り側1/3を砂利敷きとして整備しました。



期待される主な効果

- 使い勝手が向上してより利用しやすくなり、イベント企画者などプレイヤーとの対話が活発化
- 「エリア一体的な整備と広場などの緑豊かな空間の創出」など、アイデアコンペで多く見られた提案の実現に向けた実験的取組みが活発化

R6年度：アイデアコンペ

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

応募のあった64件の提案作品を分析し、特に重視されている観点として以下の8点が抽出されました。これにより、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討に向けた示唆を得ることができました。

01 公園・広場としての一体化

NHK跡地や県庁前公園に留まらず、道路や駐車場を無くすまたは集約、再配置等を行うことにより、分断の無い一体的な空間を生み出す。



02 水辺・緑の創出

エリア全体を緑であふれた空間とする、噴水設備をリニューアルし、子どもが遊べる憩いの水辺空間として魅力向上させる。



03 南北の動線デザイン

富山駅と商店街地区の関係性を意識し、南北それぞれに対する動線やつながぎ方をデザインする、県庁前公園から本館を通り抜け、松川・城址公園へのスムーズな移動を可能とする。



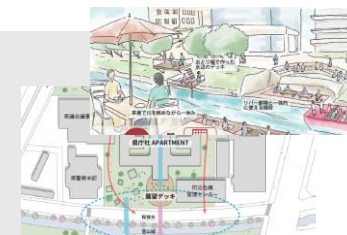
04 駐車場の配置

歩行者空間を充実させるため、エリアに散在している駐車場を集約化、または立体駐車場/地下駐車場を整備。



05 松川沿いの空間の魅力化

松川沿いの道路だけでなく、県庁舎南側の空間との一体性を生み、歩きやすい空間を生む。松川沿いにテラスやデッキ、カフェ等の飲食施設など、滞在性の高い空間・機能を創出する。



06 県庁舎本館の利活用

コワーキングスペースやホテル、イベントスペースとしての貸出、壁面の演出。公園と一体的に修景し文化財としての価値を高める。



07 全天候型の空間づくり

デザイン性のある屋根を公園や広場の中に設けて、天候の悪い日や日差しの強い日でも過ごしやすいエリアとする。



08 賑わい機能

マルシェやカフェテラスなど、日常的に人が集まる仕掛け、多様なイベントを受け入れ、昼夜を問わず楽しみが生まれる場とする。

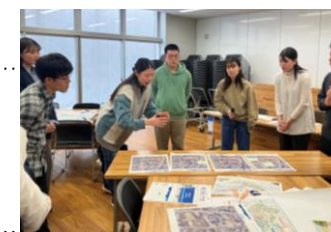


R6年度：意見交換会

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

意見交換会では、若い世代による活発なコミュニケーションが図られ、様々な意見・アイデアを得ることができました。

主な意見の傾向	具体的な意見・アイデア	
① 南北につなげる	・ 富山駅～総曲輪まで歩きやすい動線を生み出す ・ 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする	・ 総曲輪まで続くアーケード ・ 県庁前公園と城址公園の2つの広場が分かれているのは勿体ないのでつなげたい
② 歩きたくなる 一体的なエリアデザイン	・ エリア全体のコンセプトを統一したい ・ デザイン性のある公園 ・ 車道を無くす ・ 日当たりのよい空間とする ・ 歩行者ファーストの空間づくり	・ 駐車場の集約 ・ 開放感のある空間 ・ 木を減らして芝生を増やす ・ 城址大通りを横断しやすくする
③ 天候に左右されずに過ごせる	・ アーケードや地下道の整備 ・ 屋根のある空間 ・ 雨でも歩きたい	・ 全天候型の遊び場 ・ 噴水周辺に屋根をかける ・ こどもが雨の日でも遊べる
④ 松川べりや水辺を楽しめる	・ 松川沿いの歩道の拡幅 ・ 水辺空間と人が集まる空間を近づける ・ シームレスな水際	・ 松川の橋を増やす ・ 松川沿いを歩行者専用道路化 ・ 噴水から松川まで水路等でつなげることで、水辺の動線を創出する
⑤ 県庁舎本館の開放	・ 県庁舎本館の中を誰もが通り抜けることができるようにする ・ 歴史を感じられる建物として、多くの人が訪れやすい場所にする	・ アート作品の展示 ・ 県の情報発信拠点 ・ 県職員の仕事の様子が見られる
⑥ 富山県やエリアのことを新しく知ることができる	・ 県庁の取組をPRできる場所 ・ まちづくりに興味を持つことができる場所 ・ ポップアップストアがある	・ 地元食材を楽しめる場所 ・ 富山らしく自然を活かす ・ 歴史・文化・産業等を体験できる
⑦ 楽しみがあり 多様な人が集まる	・ スポーツ観戦のライブビューイングや映画鑑賞 ・ のんびりランチや運動を楽しめる ・ アート作品やキャラクターの銅像等をエリア内に点在 ・ オープンキッチン	・ コワーキング ・ 本を読んだり、休憩できる場所、カフェスペース ・ 水路の手入れ等を通じた地域交流の場
⑧ こどもや若者にとっての魅力	・ 噴水周りに子どもが遊べるスペースをつくる ・ 遊具を充実させる、遊び場をつくる	・ 学生や社会人が参加できることでまちづくりを衰退させない ・ 若者がスポーツを楽しむ



方向性の整理

Ⅲ. 意見収集と方向性の整理

庁内プロジェクトチームにおける議論をもとに、収集した意見を照合し、エリアコンセプトやアクションプラン骨子の検討の方向性を整理しました。

検討の方向性

現状の敷地区分に関わらず、エリアを一体化して歩きやすく滞在性の高い空間とするようなランドデザインが求められるのではないかな。

まちなかにおける貴重なグリーンインフラとして、緑あふれる憩いの広場や公園を生み出すことで、エリア及びその周辺の魅力・価値向上に資するのではないかな。

富山駅と商店街地区の中間に位置する立地の関係性から、当エリアが両地区をつなぐ役割を担い、動線や機能を配置していく必要があるのではないかな。

歴史的な文脈を持ち、当エリアの貴重な水辺空間を提供する松川について、ハード・ソフト両面の取り組みが求められるのではないかな。

登録有形文化財である県庁舎本館について、当エリアのランドマークとして、賑わいを創出する複合的な利活用を検討するべきではないかな。

アイデアコンペ

▶エリア全体の空間デザインの視点

- ① 公園・広場としての一体化
- ② 水辺・緑の創出
- ③ 南北の動線デザイン
- ④ 駐車場の配置

▶個別アセットの利活用の視点

- ⑤ 松川沿いの空間の魅力化
- ⑥ 県庁舎本館の利活用

▶機能としての魅力化の視点

- ⑦ 全天候型の空間づくり
- ⑧ 賑わい機能

意見交換会

① 南北につなげる

② 歩きたくなる
一体的なエリアデザイン

③ 天候に左右されずに過ごせる

④ 松川べりや水辺を楽しめる

⑤ 県庁舎本館の開放

⑥ 富山県やエリアのことを
新しく知ることができる

⑦ 楽しみがあり多様な人が集まる

⑧ こどもや若者にとっての魅力

エリアコンセプト

IV. エリアコンセプト

いつでも、歩くたびに…を感じる。

憩いとゆしみを

365日、訪れる人々が憩いとゆしみを
感じられる、多様な居場所になる

水辺を

松川をより親しみのある水辺空間として、
エリアの価値を高める

つながりを

歩いて楽しめる空間として
賑わいの連続性と回遊性を高める

緑を

緑あふれるまちなかのオープンスペースを
生み出し、居心地の良い空間とする

共創を

地域課題解決を共に目指す共創コミュニティを
築き上げていく

集まりを

県内外から人・企業・資金・情報が
集まり交流が生まれる

広がり

生み出された付加価値を県全域に波及させて、
日本各地や世界へ発信していく

アクションプラン骨子

V. アクションプラン骨子

エリアコンセプトに基づき、空間・アセットに対する施策として、「5つのアクション」を設定しました。令和7年度に策定する県有地等の基本構想において具体化を図ります。

5つのアクション

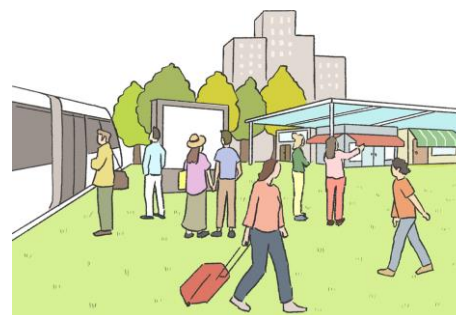
01 ウォーカブルで一体的な歩行者空間を生み出す

02 まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する

03 松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる

04 歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する

05 富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める



#緑とオープンスペース

#ウェルビーイング



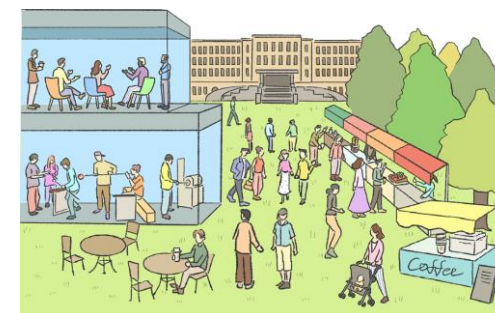
#松川

#ウォーカブル



#県庁舎本館

#賑わいと交流



#共創

#エリアマネジメント

プレイヤーの発掘・育成と民間投資の呼び込み

- 令和6年度の取り組みの成果を活用して、プレイヤーの発掘・育成と民間投資の呼び込みを目指して動き出しています。

NHK跡地 暫定活用

■ 暫定活用の主催者等との対話・意見交換

→このエリアの需要が確認され、今後も活用したいとの声を得られたほか、必要な整備を検討

■ 芝生・アスファルト整備の実施

→整備後の活用に関する問い合わせが多数、スポーツ団体や食に関するイベントの実施団体などから、すでに5月～11月にかけて5件の活用希望あり

→新たに実施する数年程度の活用についても、民間事業者との対話を開始した

アイデア コンペ

■ 様々な媒体やネットワークを通じて積極的にPRを実施

→あまり例を見ない取り組みであったが、全国より64もの提案が寄せられ、地元経済界からも協賛や寄附を通じて賛同や応援をいただいた

→提案の中から「モビリティの活用」や「公園・広場を一体化させた賑わいの創出」については、現在、実現に向け事業者と対話を進めている

意見 交換会

■ 当日参加した学生・若者同士でつながりが生まれ、NHK跡地でのイベントを企画

→後日、県の担当者が企画打ち合わせに参加し、自主的なチャレンジをサポート

ロードマップ

VI. 未来に向けて

富山県置県150年となる令和15年度を見据えて、エリアコンセプトやありたい姿の実現を目指します。

